

大学等名	岐阜聖徳学園大学
プログラム名	岐阜聖徳学園大学経済情報学部 数理・データサイエンス・AI教育(応用基礎レベル)プログラム
適用モデルカリキュラム	改定前モデルカリキュラム(2021年3月29日制定)

応用基礎レベルのプログラムを構成する授業科目について

① 申請単位 学部・学科単位のプログラム ② 既認定プログラムとの関係

③ 教育プログラムの修了要件

④ 対象となる学部・学科名称
経済情報学部

⑤ 修了要件
 プログラムを構成する科目から以下の要件を満たし、合計16単位以上を修得すること。
 ・必須科目としてデータサイエンス(2単位)、AI基礎プログラミングI(2単位)、AI基礎プログラミングII(2単位)、データ分析(2単位)、AI実践演習I(2単位)、情報と社会(2単位)の6科目すべて修得する。
 ・選択科目として情報処理論(2単位)、数理C(2単位)、AI実践演習II(2単位)、経済統計(2単位)、計量経済学I(2単位)、計量経済学II(2単位)、ファイナンス論I(2単位)、ファイナンス論II(2単位)、マーケティングリサーチ(2単位)、経営分析I(2単位)、経営分析II(2単位)、シミュレーション(2単位)から4単位以上修得する。

必要最低科目数・単位数 8 科目 16 単位 履修必須の有無 令和10年度以降に履修必須とする計画、又は未定

⑥ 応用基礎コア「Ⅰ. データ表現とアルゴリズム」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7	授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7
データサイエンス	2	○	○										
AI基礎プログラミングI	2	○			○	○							
AI基礎プログラミングII	2	○		○		○							
数理C	2		○										
情報処理論	2			○									

⑦ 応用基礎コア「Ⅱ. AI・データサイエンス基礎」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9	授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9
データサイエンス	2	○						○	○												
データ分析	2	○		○																	
AI実践演習I	2	○								○											
AI実践演習II	2							○	○												
情報と社会	2	○	○		○	○	○														

⑧ 応用基礎コア「Ⅲ. AI・データサイエンス実践」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	授業科目	単位数	必須
AI実践演習I	2	○			
経済統計	2				
計量経済学I	2				
計量経済学II	2				
ファイナンス論I	2				
ファイナンス論II	2				
マーケティングリサーチ	2				
経営分析I	2				
経営分析II	2				

⑨ 選択項目・その他の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
シミュレーション	データサイエンス応用基礎		
AI実践演習Ⅱ	データサイエンス応用基礎		
データ分析	データサイエンス応用基礎		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6	・順列、組合せ、集合、条件付き確率、ベイズの定理「データサイエンス」(第6回)「数理C」(第2～4回) ・代表値、分散、標準偏差「データサイエンス」(第6回)「数理C」(第12回) ・相関係数、相関関係と因果関係「データサイエンス」(第5回)「数理C」(第12回) ・確率分布、正規分布「数理C」(第13～14回) ・ベクトルと行列、ベクトルの演算、行列の演算「データサイエンス」(第2回)「数理C」(第5～7回) ・初等関数、1変数関数の微分法・積分法「データサイエンス」(第3回)「数理C」(第9～11回) ・2変数関数の微分法「データサイエンス」(第3、5回)
	1-7	・アルゴリズムの表現「AI基礎プログラミングⅡ」(第4回) ・並び替え、探索「AI基礎プログラミングⅡ」(第4回)「情報処理論」(第14、15回)
	2-2	・コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画など)「AI基礎プログラミングⅠ」(第2回) ・情報量の単位、二進数、文字コード、構造化データと非構造化データ「AI基礎プログラミングⅠ」(第2回)
	2-7	・文字型、整数型、浮動小数点型「AI基礎プログラミングⅠ」(第4回) ・変数、代入、四則演算、論理演算「AI基礎プログラミングⅡ」(第2、3回) ・関数、引数、戻り値「AI基礎プログラミングⅠ」(第10回)「AI基礎プログラミングⅡ」(第4回)
(2) AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1	・データ駆動型社会、Society 5.0「情報と社会」(第7回) ・データサイエンス活用事例「情報と社会」(第7回)
	1-2	・データ分析の進め方、仮説検証サイクル「データ分析」(第3回) ・様々なデータ分析手法「データ分析」(第13回) ・様々なデータ可視化手法「データ分析」(第9回) ・データの収集、加工「データ分析」(第8回)
	2-1	・ICTの進展、ビッグデータ「情報と社会」(第2回) ・ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス、ビッグデータ活用事例「情報と社会」(第2回)
	3-1	・AIの歴史、推論、探索、強いAI/弱いAI「情報と社会」(第8回)
	3-2	・AI倫理、AIの社会的受容性、プライバシー保護、個人情報の取り扱い「情報と社会」(第8回)
	3-3	・実世界で進む機械学習の応用と発展「データサイエンス」(第4回)「AI実践演習Ⅱ」(第12～15回) ・教師あり学習、教師なし学習、強化学習「データサイエンス」(第4回)
	3-4	・実世界で進む深層学習の応用と革新「データサイエンス」(第11回) ・ニューラルネットワークの原理「データサイエンス」(第10回)
	3-9	・AIの学習と推論、評価、再学習「AI実践演習Ⅰ」(第14、15回)「AI実践演習Ⅱ」(第2回) ・AIの社会実装、ビジネス/業務への取り込み「AI実践演習Ⅱ」(第14回)

(3)本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用企画・実施・評価」から構成される。	I	・確率分布「計量経済学Ⅰ」(第5～7回) ・区間推定「計量経済学Ⅰ」(第9～13回) ・帰無仮説と対立仮説、片側検定と両側検定「計量経済学Ⅱ」(第8、14回)
	II	・データ分析の進め方「ファイナンス論Ⅰ」(第7回)「ファイナンス論Ⅱ」(第2～4、10～11回) ・データ分析の進め方、仮説検証サイクル「マーケティング・リサーチ」(第3、9回) ・分析目的の設定「マーケティング・リサーチ」(第3回) ・様々なデータ分析手法「経営分析Ⅰ」(第12回)「経営分析Ⅱ」(第11～13回)「計量経済学Ⅱ」(第9～14回)「ファイナンス論Ⅰ」(第4、12～14回) ・様々なデータ可視化手法「経済統計」(第12、14回)「ファイナンス論Ⅰ」(第4、12～14回) ・AIシステムの開発、テスト、運用「AI実践演習Ⅰ」(第12～15回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

本プログラムを履修することで、学生が経済、経営、情報分野の教育内容を補強し、数理・データサイエンス・AIを道具として活用できることを目指す。

- ・AIのモデルやAIのしくみを理解している。
- ・AIを利用して課題を解決する基礎的な能力を身に付けることができる。
- ・データ分析に必要なデータ収集法、データ処理、様々な分析手法、可視化手法を修得する。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容

「数理・データサイエンス・AI(応用基礎レベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)における、コア学修項目「3-5 生成AIの基礎と展望」の内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)について、令和7年度以降の実施・検討状況などを記載してください。(教育プログラムに含む・含める科目に限り記載し、構想を含む講義内容が記載出来る場合は記載してください)

※本項目は令和7年度先行認定より改訂版モデルカリキュラムを完全適用することを踏まえ、各大学等の実施・検討状況を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

実施・検討状況
「情報と社会」の第8回「AIと社会」の中で、画像生成や動画生成などの活用事例をいくつか取り上げ、生成AIについて解説した。

応用基礎レベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和4 年度(和暦)

②大学等全体の男女別学生数 男性 1555 人 女性 1309 人 (合計 2864 人)
(令和6年5月1日時点)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
経済情報学部経済情報学科	660	150	600	195	1	119	0	75	0							389	65%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合 計	660	150	600	195	1	119	0	75	0	0	0	0	0	0	0	389	65%

大学等名 岐阜聖徳学園大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 144 人 (非常勤) 157 人

② プログラムの授業を教えている教員数 11 人

③ プログラムの運営責任者
(責任者名) 寶壺 貴之 (役職名) 経済情報学部 学部長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)
経済情報学部教務委員会
(責任者名) 齊藤 善弘 (役職名) 経済情報学部 教務委員長

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称
経済情報学部教務委員会規程

⑥ 体制の目的
本委員会では、
・教育課程の編成に関する事
・履修方法に関する事
・学業評価に関する事
・シラバスの記載内容(カリキュラム・ポリシーとの整合性を含む)の改善に関する事
等の事項について審議している。
「数理・データサイエンス・AI教育(応用基礎レベル)プログラム」に関するワーキンググループの設置
やワーキンググループの検討結果についても本委員会で審議している。

⑦ 具体的な構成員
経済情報学部教務委員会
教務委員長 齊藤 善弘(経済情報学部教授)
教務副委員長 稲垣 雅一(経済情報学部准教授)
教務委員 阿部 邦美(経済情報学部教授)
大成 利広(経済情報学部教授)
城福 雅伸(経済情報学部教授)
柿坂 学(経済情報学部准教授)
長田 元(経済情報学部准教授)
中村 あずさ(経済情報学部准教授)

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	65%	令和7年度予定	70%	令和8年度予定	72%
令和9年度予定	75%	令和10年度予定	77%	収容定員(名)	600
具体的な計画					
本教育プログラムは令和4年度より開始し、対象科目は18科目開講している。令和4年度履修率13%、令和5年度履修率45%、令和6年度履修率65%となっている。 各学年各学期で実施するオリエンテーション及びLMSを利用し、本教育プログラムについての必要性和有益性を全学生に周知し、積極的な履修と修得を奨励している。修了要件を満たすように対象科目から必須科目を含め選択する方式である。3年次で初めて修了要件を満たすため、修了者数は1名(見込み)である。また、今後のオリエンテーションの充実や社会的要請の周知、本プログラムの自己点検と改善により、履修者数・履修率を向上させる計画である。					

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本学では令和4年度より、MDASHリテラシーレベルの授業科目「データサイエンス入門」を全学必須として開設している。リテラシーレベルの授業科目から数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識を修得し、さらに興味をもった学生に対して、応用基礎レベルを履修することができるような副専攻プログラムを開設する予定である。
--

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

令和7年度から本学部学生が参照する履修の手引きに本教育プログラムについての説明とカリキュラムツリーを掲載している。各学年各学期で実施するオリエンテーション時に本教育プログラムについて全学生に対し周知徹底するとともに、履修を促進している。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本学部学生が本教育プログラムを履修・修得できるように、LMSやTAを活用し、学修サポートを実施している。また本学ではノートパソコン必携化を推進しており、本教育プログラム担当教員や情報教育研究センターのスタッフによりサポートしている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業時間内に質問を受け付けているほか、LMSを用いて授業時間外でも質問を受け付け、回答を行っている。また本教育プログラム担当教員を含め本学部の全教員がオフィスアワーを設け、学生からの質問や相談を受け付けられる体制をとっている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

経済情報学部教務委員会

(責任者名) 齊藤 善弘

(役職名) 経済情報学部 教務委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本プログラムの授業科目は1年次から4年次にわたっており、すべての必須科目が3年次までで受講できることから、令和4年度に受講を開始した学生が令和6年度に初めて修了認定を受けることになる。 プログラムの履修状況は令和4年度の履修率が13%、令和5年度45%、令和6年度65%と順調に伸びている。しかし、1年次の必須科目である「AI基礎プログラミングI」の受講者は75名であったが、そのうち3年次の必須科目である4科目「AI基礎プログラミングII」「データ分析」「データサイエンス」「AI実践演習I」をすべて受講した学生はわずか1名であった。この原因は本プログラムの学生への周知が不十分であったことが考えられる。 また、高学年に配当されている科目は専門性が高いことから履修者数は少なくなる傾向が見られ、少人数制で丁寧な指導を実施することで履修者数、修了者数を増やす計画である。
学修成果	本プログラムを構成する科目の到達目標についてはシラバスに記載されている。 本プログラムの学修成果については、修了した学生がどのような科目を履修して、どのような成績を収めたか、卒業後にどのような進路に進んだかなどを、教務委員会が就職委員会等と連携して経時的に調査する予定である。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本プログラムを構成する科目では受講者に対して「学生による授業評価アンケート」を実施しており、学生の理解度や学修意欲等を把握し、授業内容及び方法の改善を図っている。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本プログラムを構成する科目では受講者に対して「学生による授業評価アンケート」を実施しており、後輩学生や他の学生への推奨度については設問「今回の講義を友人や後輩等に推奨したいと思いますか。」で確認している。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本プログラムは学部独自プログラムであり、現在、全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画はない。 しかし、本学ではMDASHリテラシーレベルの授業科目を令和4年度より開設しており、リテラシーレベルに興味をもった学生に対して、応用基礎レベルを履修することができるような副専攻プログラムを開設する予定である。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	学生の就職状況と履修状況を確認することにより、本プログラムを修了した卒業生の進路先については把握することが可能である。また、本プログラムを修了した卒業生の活躍状況や企業等の評価については、就職課が調査している。 卒業生の活躍状況を収集するとともに、本学が実施する「企業向けアンケート(本学出身者に関するアンケート)」における「本学出身者に関して抱いている印象」に関する設問からの企業等から本学出身者に対する評価を把握できるよう検討している。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本学では、地方自治体や地元産業界等と各種要望や地域の課題を共有するとともに、今後の経済・社会の発展をもたらす高等教育の在り方について意見聴取することにより、本学の自己点検・評価及び教育研究水準の向上に資することを目的とした「地域連携協議会」を毎年実施している。 社会人の学び直しに関する内容や数理・データサイエンス・AI教育については、「地域連携協議会」において、意見聴取を行っている。収集した意見については教務委員会において本プログラムの検証・改善に活用している。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本プログラムを構成する科目は、数理・データサイエンス・AI分野の専門性が高いため、数理、データ分析、AIなどの各分野における具体事例を紹介することで学生の興味関心を高め、学ぶ楽しさや学ぶことの意義を理解させている。 学生が興味関心を示すような例を用いることによって、数理・データサイエンス・AIの「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させられるよう、今後も継続して検討する。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	内容・水準の維持・向上は、授業においてモデルカリキュラム(応用基礎レベル)の内容がシラバスに盛り込まれていることを確認するとともに、授業時の課題提出物及び「学生による授業評価アンケート」の〈理解度について〉等から、学生の理解度を把握し、講義の内容・実施方法の検討を行い、分かりやすい授業となるよう工夫している。 また、プログラム全体の改善点については、教務委員会がデータサイエンス教育プログラムの維持向上に努める。本プログラムの必須科目である「情報と社会」では、社会における情報技術の発展や関わり、さらに生成AIに関する内容を含んでおり、教育内容は社会の変化を把握して対応している。

2024年度

SYLLABUS

(授 業 計 画)

経 済 情 報 学 部

Faculty of Economics and Information



岐阜聖徳学園大学
Gifu Shotoku Gakuen University

科目名	データサイエンス(経済情報)			担当教員	齊藤 善弘
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	
期待される学修成果	社会事情に対応する応用力、情報の分析に関する力、				
アクティブ・ラーニングの要素	該当なし				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	AIのモデル及びAIのしくみを理解できる。				
授業の概要	表計算ソフトExcelを使用しながら機械学習の基礎（教師あり学習、教師なし学習）と深層学習の基礎を学ぶ。				

授業計画	
第1回	はじめに
第2回	数学基礎：線形代数
第3回	数学基礎：微分積分
第4回	教師あり学習、教師なし学習、強化学習
第5回	最小2乗法と勾配降下法
第6回	モンテカルロ法とベイズの定理
第7回	回帰分析
第8回	サポートベクターマシン
第9回	クラスタリング
第10回	ニューラルネットワーク
第11回	RNN
第12回	Q学習
第13回	DQN
第14回	ナイーブベイズ分類
第15回	まとめ

事前学修		前回までの配付資料に目を通しておく。
事後学修		毎回の演習課題をプリントを見ながら繰り返し練習しておく。
フィードバックの方法	提出課題については次回の授業時に解説するか、あるいはLMSに模範解答を載せフィードバックを行う。	

補足事項	ノートパソコン必携の授業になります。
------	--------------------

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし	なし	なし	なし	なし
参考資料	北川 源四郎他編著「応用基礎としてのデータサイエンス」、講談社、2023、ISBN 978-4-06-530789-2 涌井 良幸、涌井 貞美著「Excelでわかる機械学習 超入門」、技術評論社、2019、ISBN 978-4-297-10683-6 涌井 良幸、涌井 貞美著「ディープラーニングがわかる数学入門」、技術評論社、2017、ISBN 978-4-7741-8814-0			

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
レポート	40%	中間：20%、期末：20%
上記以外の試験・平常点評価	60%	毎回提出する課題の得点：60%

科目名	AI基礎プログラミングⅠ			担当教員	新谷 虎松
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	
期待される学修成果	情報の分析に関する力、				
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験	(空白)				
実務経験を生かした授業内容	(空白)				
到達目標及びテーマ	プログラミング言語を学習する上で必須となるプログラミングの基本的な文法を使いこなせるようになる。また、AI（人工知能）の基礎を理解し、プログラミング演習のなかで、データの収集、整理、分析の手法ができるようになる。				
授業の概要	Python 言語を取り上げ、プログラミングの基本的な文法、データの取り扱い手法、およびAIの基礎について学習する。				

授業計画	
第1回	Pythonとは、演習の進め方
第2回	コンピュータで扱うデータ（数値、文章、画像、音声、動画など）とPythonの基礎（情報量の単位、二進数、文字コード、構造化データと非構造化データ）
第3回	プログラミングの書法と常識（四則演算、論理演算）
第4回	変数の種類とデータ型（変数の代入、文字型、整数型、浮動小数点型）
第5回	データとコレクション（配列、木構造、グラフ）
第6回	制御文の種類と利用方法（順次、分岐、反復の構造）
第7回	条件分岐
第8回	繰り返し
第9回	Pythonで部品を組み上げる
第10回	関数、引数、戻り値
第11回	オブジェクト（その１）
第12回	オブジェクト（その２）
第13回	モジュール
第14回	総合演習（１）(Pythonの応用、AIの基礎とデータの処理)
第15回	総合演習（２）(PythonのAI基礎プログラミング)（順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成）

事前学修		教科書を参照して、プログラミング言語Pythonについて予習をしておく。さらに、自分の好みにあったPythonに関連した入門書を購入し、Pythonプログラミングの概観を理解する。
事後学修		プログラムの完成と演習問題を行う。
フィードバックの方法	授業内において課題の作成結果について個別に評価、コメントする。	

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
スッキリわかるPython入門第2版	国本大悟	インプレス	4295016365	ソフトカバー
参考資料				

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
レポート	70%	練習問題、演習課題のプログラムなど
上記以外の試験・平常点評価	30%	受講態度や出席日数

科目名	AI基礎プログラミングⅡ			担当教員	阿部 邦美
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	
期待される学修成果	基礎力、				
アクティブラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	Pythonを用いてプログラミングの基本的文法，GUIプログラミング，データの取り扱い方法，グラフの描画方法，スクレイピングの基礎を理解することができるようになる。				
授業の概要	プログラミング言語Pythonの基本的な文法を復習した上で，モジュールtkinter（GUIプログラミング），pandas（データの扱い），matplotlib（グラフの描画），bs4（スクレイピング）などについて学修する。				

授業計画	
第1回	はじめに
第2回	Pythonとは，変数の型，算術演算子【2-7プログラミング基礎】
第3回	データの集まり，関係演算子，論理演算子，if文【2-7プログラミング基礎】
第4回	繰り返し，関数，引数と戻り値【2-7プログラミング基礎】【1-7アルゴリズム】
第5回	ファイル入出力
第6回	スクレイピングの基本（bs4）【2-3データ収集】
第7回	スクレイピングによるデータ取得（bs4）【2-3データ収集】
第8回	URL解析（urllib.parse）
第9回	データの取り扱い(pandas)【2-5データ加工】
第10回	データの加工（pandas）【2-5データ加工】
第11回	グラフの描画（matplotlib）【1-5データ可視化】
第12回	オープンデータの分析（政府統計，自治体データ）【1-5データ可視化】
第13回	ウィンド表示，部品の配置（tkinter）
第14回	メッセージボックス，アニメーション（tkinter）
第15回	総合演習

事前学修		前回講義したPythonについて復習をしておく，プログラム例を読みこなせるようにする。
事後学修		プログラムの完成と演習問題を行う。
フィードバックの方法	授業内において課題の作成方法・結果について個別に評価、コメントする。	

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考資料	なし	なし	なし	なし
参考資料	Python2年生スクレイピング（森巧尚，翔泳社） Python2年生 デスクトップアプリ開発のしくみ（森巧尚，翔泳社） Python2年生 データ分析のしくみ（森巧尚，翔泳社） Pythonライブラリの使い方（松田晃一，カットシステム）			

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	85％	練習問題，演習課題のプログラムなど完成する
上記以外の試験・平常点評価	15％	受講態度や授業への参加度

科目名	数理 C			担当教員	齊藤 善弘
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	EI2GAS313
期待される学修成果	基礎力、				
アクティブ・ラーニングの要素	該当なし				
実務経験	(空白)				
実務経験を生かした授業内容	(空白)				
到達目標及びテーマ	データサイエンスに必要な線形代数、微分積分、確率・統計の基礎を学び、基礎的な演習問題を解くことができる。				
授業の概要	データサイエンスで必要となる数学、線形代数、微分積分、確率・統計の基礎を学習する。 数学は計算をこなすことにより身につく部分が多いので、講義中の演習問題等を意欲的に解くことが重要である。				

授業計画	
第1回	はじめに、入門試験
第2回	集合、順列と組合せ
第3回	事象と確率
第4回	条件付き確率
第5回	平面ベクトル
第6回	空間ベクトル
第7回	行列
第8回	まとめ（第2回～第7回）、中間試験（2回～7回までの学修到達度）
第9回	関数と極限
第10回	微分
第11回	積分
第12回	記述統計（代表値、散布度、相関係数）
第13回	離散型確率変数と確率分布
第14回	連続型確率変数と確率分布
第15回	まとめ（第9回～第14回）、期末試験（9回～14回までの学修到達度）

事前学修	2時間	第1回：SPIレベルの確率の問題（入門試験の出題範囲）を勉強しておく。 第2回以降：前回授業時に配付する次回の予習プリントに目を通し、例題を解いて理解する。
事後学修	2時間	授業時に配付する「出来る人はやってみよう」の問題を解く。
フィードバックの方法	毎回、演習後に解答と解説を配付し、自己添削を行い、提出。次回に提出物を返却する。	

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし	なし	なし	なし	なし
参考資料	椎名洋・姫野哲人・保科架風 著「データサイエンスのための数学」講談社、2019年、ISBN 978-4-06-516998-8			

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	100%	中間試験：20%、期末試験：20%、毎回の提出物：60%

科目名	情報処理論			担当教員	阿部 邦美
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	EI2INF309
期待される学修成果	情報の分析に関する力、基礎力、				
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験	(空白)				
実務経験を生かした授業内容	(空白)				
到達目標及びテーマ	プログラミング言語を学習する上で必須となるプログラミングの基本的な文法を使いこなせるようになる。また、プログラミング演習のなかで、データの収集、整理、分析の手法ができるようになる。				
授業の概要	1年生の「AI基礎プログラミングI」でPythonを取り上げたのにつづき、Java 言語を取り上げ、プログラミングの基本的な文法、およびデータの取り扱い手法について学習する。1年生のときに勉強したPythonとの違いを理解する。				

授業計画	
第1回	はじめに
第2回	Javaとは
第3回	プログラミングの書法と常識
第4回	定数と変数
第5回	算術演算子、インクリメント
第6回	文字列の演算、関係演算子、論理演算子
第7回	条件式
第8回	for文とwhile文
第9回	breakとcontinueの役割
第10回	配列とその宣言
第11回	クラス、オブジェクト
第12回	メソッド、コンストラクタ、オーバーロード
第13回	継承
第14回	総合演習(1)（ソートについて）
第15回	総合演習(2)（探索について）

事前学修	2時間	前回の講義内容について復習しておく。さらに、プログラム例を読みこなせるようにする。
事後学修	2時間	プログラムの完成と演習問題を行う。
フィードバックの方法	授業内において課題の作成方法・結果について個別に評価、コメントする。	

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
資料配布	なし	なし	なし	なし
参考資料	Java 第3版 入門編 ゼロからはじめるプログラミング（三谷 純 著、翔泳社） スッキリわかるJava入門 第4版（中山 清喬、国本 大悟 著、インプレス） Javaの絵本（アंक 著、翔泳社）			

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	75%	
レポート	20%	練習問題、演習課題のプログラムなどを完成する
上記以外の試験・平常点評価	5%	受講態度や授業への参加度

科目名	データ分析			担当教員	山本 英子
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	EI3INA208
期待される学修成果	社会事情に対応する応用力、情報の分析に関する力、				
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験	(空白)				
実務経験を生かした授業内容	(空白)				
到達目標及びテーマ	データとは何かと、データを分析するために必要なデータ処理の基本的な考え方と概念を利用でき、さらに様々な分析手法や可視化手法、収集法を組み合わせ、データを分析する際に応用できるようになることを目標とする。				
授業の概要	社会現象や社会意識および人間の行動などを説明するには、定性的かつ定量的な情報を集める必要がある。そういった情報を集めるために、データ分析は有効なものである。データ分析とは、分析目的に沿った、データの収集、加工、データの可視化、データの特徴を数値化し、その数値を根拠とした説得力のある問題解決案を提示することである。本講義では、情報の数値データへの変換方法を始め、データ分析の進め方としてPPDACサイクルをもとに、データの収集法、可視化手法、分析手法を講義する。				

授業計画	
第1回	データとは何か、データの数値化・可視化
第2回	分析目的の設定
第3回	データの細分化・詳細化（分割/統合）
第4回	データ分析の進め方（PPDACサイクル）、仮説検証サイクル
第5回	データの収集法①：公開データの収集
第6回	データの収集法②：アンケート調査
第7回	データの収集法③：Webスクレイピング
第8回	データの加工・クレンジング
第9回	データ可視化手法（比較、構成、分布、変化）
第10回	データ分析手法①：基本統計量
第11回	データ分析手法②：散布図・相関・因果関係
第12回	データ分析手法③：回帰分析
第13回	データ分析手法④：分類、クラスタリング
第14回	学修到達度の確認のための最終課題の出題
第15回	授業全体の総括

事前学修	2時間	次回講義で取り上げるキーワードについて調べておくこと。
事後学修	2時間	前回の演習課題の模範解答を確認し、講義中に出題した演習課題を行うこと。
フィードバックの方法	課題の解答は提出期限後、模範解答を開示し、解説する。	

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
資料配布	なし	なし	なし	なし
参考資料				

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	70%	毎回課題を出題する。課題の到達度を確認する。提出期限を厳守すること。
レポート	30%	14回目の講義で出題する。課題の完成度を絶対評価で採点する。

科目名	AI実践演習Ⅰ			担当教員	高橋 友和
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	
期待される学修成果	情報の分析に関する力、				
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	AIを利用して課題を解決する実践的な力を身に付ける。				
授業の概要	現代社会と密接な関わりを持つAIは、今後ますますその必要性が高まっていくことが予想される。そのため、AIを利用して課題を解決するスキルの習得は必須であると言える。本講義では、演習を通じて最新のAI技術に触れ、AIを利用して課題を解決する実践的な力を身に付けることを目的とする。				

授業計画	
第1回	現代社会とAI
第2回	AIの最新の研究動向
第3回	画像認識技術
第4回	画像認識技術の応用
第5回	音声認識技術
第6回	自動翻訳技術
第7回	音声合成技術
第8回	顔検出・顔特徴点検出技術
第9回	手・人体の姿勢推定技術
第10回	顔認識技術
第11回	顔認識技術の応用
第12回	物体検出技術
第13回	物体検出モデルの学習
第14回	AIの構築と運用① 画像認識AIの構築
第15回	AIの構築と運用② 画像認識AIの運用

事前学修		各回の授業計画にあるキーワードについて調査する。
事後学修		各回の授業内容をまとめる。
フィードバックの方法	授業内で課題の解説を行う。	

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし	特になし	特になし	特になし	特になし
参考資料				

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	100%	授業内容の理解度を評価する
定期試験	0%	実施しない

科目名	AI実践演習 II			担当教員	新谷 虎松
単位	2単位	講義区分	講義	ナンバリング	
期待される学修成果	情報の分析に関する力				
アクティブ・ラーニング の要素	実習、フィールドワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	プログラミング言語Pythonを用いた基本的な演習を行い、機械学習の基礎技術を習得し、AIの構築と運用について学ぶ				
授業の概要	AI技術に関する基本的なプログラミングの基礎やAIの技術背景を理解する。AI技術に関連して機会学習などの基礎技術や問題解決手法の習得を目指す。Pythonは、初心者から職業プログラマーまでに広く使われており、人工知能技術である機械学習だけではなく、Webアプリ開発などでも使われている。				

授業計画	
第1回	Pythonの概観，演習の進め方 （人工知能(AI)の開発環境と実行環境）
第2回	人工知能(AI)と機械学習 (推論、評価、再学習)
第3回	Pythonの基礎（実行）
第4回	Pythonの基礎（変数）
第5回	Pythonの基礎（データ構造）
第6回	Pythonの基礎（制御構文）
第7回	Pythonの基礎（関数とクラス）
第8回	機械学習に必要な基礎統計学
第9回	Pythonの応用（統計学でよく使われるグラフ描画）
第10回	Pythonの応用（データ分析の基本）
第11回	Pyhonの応用（機械学習の概略を理解する）
第12回	機械学習の体験（pandasの使い方）
第13回	データの前処理（機械学習の実践1：分類）
第14回	AIの社会実装、ビジネス・業務への組み込み（機械学習の実行2：回帰）
第15回	複数のAI技術を活用したシステム （生成AIとプロンプト）

事前学修		各回の授業計画に示されているキーワードについて調査する（第1回～第15回）
事後学修		各回の授業内容をまとめる（第1回～第15回）
フィードバックの方法	授業内でレポートの解説を行う	

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
スッキリわかるPythonによる機械学習入門 第2版	須藤秋良	インプレス	4295020605	なし
参考資料				

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0％	実施しない
レポート	70％	授業内容の理解度を評価する
上記以外の試験・平常点評価	30％	授業態度や出席日数

科目名	情報と社会			担当教員	高橋 友和、深井 隆司
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	EI2INA310
期待される学修成果	社会事情に対応する応用力、情報の分析に関する力、				
アクティブ・ラーニングの要素	該当なし				
実務経験	会社経営・塾長・航空会社（パイロット）・コンサルタント・講演(社会学)【深井隆司】				
実務経験を生かした授業内容	ＩＴ関連会社における実務経験を生かし、これからの情報社会の在り方等に関する講義を行う。				
到達目標及びテーマ	社会における情報の役割を理解し、説明できる。目標は主に、基礎教養・情報収集分析に関する力・コミュニケーション能力・態度の４点を重要テーマとします。				
授業の概要	前半の第1回から第8回（担当：高橋）は、情報と社会のかかわりやその歴史、現代社会の発展に大きく貢献した情報技術の中から代表的なものをいくつか解説し、データ駆動型社会、AIと社会について概説する。後半の第9回から第15回（担当：深井）は、実際にＩＴ関連の業務に取り組まれている企業の方を講師としてお招きし、これからの情報社会の在り方等に関して、ご講義いただく。				

授業計画	
第1回	<第1部> 情報とは何か？【担当：高橋】
第2回	<第1部> 情報通信技術の歴史【担当：高橋】
第3回	<第1部> 誤り訂正（伝言ゲームが失敗するのはなぜか）【担当：高橋】
第4回	<第1部> 情報圧縮（旅行かばんに大量の衣服を詰め込む）【担当：高橋】
第5回	<第1部> 暗号と署名（遠くの人とヒソヒソ話をする）【担当：高橋】
第6回	<第1部> ウェブ検索（干し草から針を探す）【担当：高橋】
第7回	<第1部> データ駆動型社会【担当：高橋】
第8回	<第1部> AIと社会【担当：高橋】
第9回	<第2部> 本来のIT（情報通信技術）の在り方【担当：深井】
第10回	<第2部> 0と1で何ができるかを考える【担当：深井】
第11回	<第2部> 情報社会と我々の立ち位置を考える【担当：深井】
第12回	<第2部> DX（デジタルトランスフォーメーション）を考える（基礎編）【担当：深井】
第13回	<第2部> DX（デジタルトランスフォーメーション）を考える（応用編）【担当：深井】
第14回	<第2部> これから目指す情報の在り方（事例と今後）【担当：深井】
第15回	<第2部> 今後予想される情報社会とは【担当：深井】

事前学修	2時間	各回の授業計画に示されているキーワードについて調査する（第1回～第15回）
事後学修	2時間	各回の授業内容をまとめる（第1回～第15回）
フィードバックの方法	授業内でレポートの解説を行う	

補足事項	授業前半の1回から8回迄の講義は、高橋教授による学術的講義があります。この講義内容が基礎となり、後半講義第9回から15回迄の講義が形成されています。前半の講義の理解度を確保して頂くことが後半の講義の理解度も高まると考えます【深井隆司】
------	---

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし	なし	なし	なし	なし
参考資料	特になし			

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	100%	授業内容の理解度を評価する
定期試験	0%	実施しない

科目名	経済統計			担当教員	長田 元
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	E11BEC201
期待される学修成果	情報の分析に関する力、基礎力、				
777イ・ラング の要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験	国家公務員としての財政等に関する業務経験を活かし、地域経済、財政の役割について講義を行う。				
実務経験を生かした授業内容	各省庁や地方自治体が作成する統計を用いて業務を行ってきた経験を踏まえ、受講生が統計から経済の特徴を把握できるような授業を行う。				
到達目標及びテーマ	講義の目標：１）経済統計、人口統計の基礎を学び、説明できる能力を身につける。併せて、２）情報利用技術（インターネット、ワード、エクセル）を活用して、グラフを作成し説明するなど経済分析の基礎的な能力を身につけることができる。テーマ：経済・人口の統計データを分析する基礎能力を養成すること。				
授業の概要	講義の内容は、①GDPなどの経済統計、国勢調査などの人口統計の基礎を学ぶ、②情報利用技術（インターネット、ワード、エクセル）の活用能力を高め、③経済・社会に関する統計データを入手し、作表し、グラフを書き、分析し、文章にまとめる基礎技術を習得することである。本講義を受講することにより、経済に関する統計を表やグラフに示すこと、その統計がどのような事実や傾向を示しているか他者に説明することができるようになる。受講生は、学習で得た能力を他科目のレポート作成や卒業研究に活かすことが期待される。講義中にしばしば指名するのでディスカッションに参加してほしい。				

授業計画	
第1回	オリエンテーション：講義の進め方
第2回	統計とは何か1 統計の役割や種類を解説します。 参考 総務省統計局「なるほど統計学園」1 はじめに https://www.stat.go.jp/naruhodo/1_hajimeni/index.htmlにある統計の役割や種類を解説します。
第3回	統計とは何か2 平均、構成比、寄与度・寄与率などを解説します。 参考 総務省統計局「なるほど統計学園」1 3 統計用語辞典 https://www.stat.go.jp/naruhodo/13_yougo/a-gyo.htmlにある用語を解説します。 キーワード：平均、構成比、寄与度・寄与率
第4回	統計から読み解けること1 人口に関する統計が示すこと。 教科書第1章（pp.8-20）を解説する。
第5回	パソコン実技1 パソコンの起動方法、出し方・エクセルの起動方法・保存方法 ポイント：エクセルの起動方法、「名前を付けて保存」といった機能を学びます。
第6回	パソコン実技2：エクセルの統計表の作成 ポイント：エクセルの起動方法、野線の付け方、セルへの入力の方、挿入」メニューにある「グラフの作成」といった機能を学びます。
第7回	統計とは何か3：GDP、物価など キーワード：GDP、消費者物価指数
第8回	パソコン実技3：エクセル図表のワードへの貼り付け、ペイント機能など
第9回	統計とは何か4：国勢調査、経済センサスなど キーワード：国勢調査、経済センサス、財務省貿易統計
第10回	パソコン実技4：1軸のエクセルグラフの作図 教科書または指定する表からグラフを作成する。 参考 マイクロソフトホームページ グラフを作成する https://support.microsoft.com/ja-jp/office/%E3%82%B0%E3%83%A9%E3%83%95%E3%82%92%E4%BD%9C%E6%88%90%E3%81%99%E3%82%BB-0baf399e-dd61-4e18-8a73-b3fd5d5680c2
第11回	統計から読み解けること2 産業構造の変化 教科書第3章（pp.36-52）を解説する。
第12回	パソコン実技5：2軸のエクセルグラフの作図（産業別15歳以上労働者数及び名目GDPの推移 全国と岐阜県の人口）
第13回	統計から読み解けること3 日本の文化・交通など 教科書第2章、第4章、第5章のうち主要なものを解説する。
第14回	パソコン実技6：散布図の作成、回帰分析など 参考 総務省統計局「なるほど統計学園」 https://www.stat.go.jp/naruhodo/9_graph/jyokyu/sanpu.html https://www.stat.go.jp/naruhodo/10_tokucho/hukusu.html にある「散布図」「複数の変数の関係性を見る」を解説します。
第15回	まとめ（講義の総括・総復習）

事前学修	2時間	都度必要な資料を配付することがある。平均、構成比、増減率などは、手計算でもエクセルでも計算できるように訓練して欲しい。グラフの作成については、エクセル操作を練習しておくこと。統計からどのようなことを読み解けるのか予め教科書を読んでおく。
事後学修	2時間	全体を通じて、実際に表やグラフを作成すること。何度もエクセルを使用して、グラフが「描けた」レベルに到達してほしい。
777イ・ラングの方法	実際に表やグラフの作成を実演して操作方法の解説を行う。	

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
統計から読み解く色分け日本地図	重永 瞬	彩図社	978-4801305830	
参考資料	必要に応じて配布する。			

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	50％	１）統計に関する基礎的な知識を問う問題、２）統計から読み解けることを記述する問題
レポート	50％	１）教科書や統計にある数値から表やグラフを作成する

科目名	計量経済学Ⅰ			担当教員	稲垣 雅一
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	EI3ECA301
期待される学修成果	情報の分析に関する力、基礎力、				
アクティブ・ラーニングの要素	該当なし				
実務経験	(空白)				
実務経験を生かした授業内容	(空白)				
到達目標及びテーマ	本講義では、計量経済学を学ぶために必要な統計学の知識習得を目標に講義を進める。また、課題を通してエクセルの使い方を学ぶ。				
授業の概要	計量経済学は、ミクロ経済学やマクロ経済学といった経済理論に基づき組み立てられたモデルに対して、現実のデータをあてはめることでその妥当性を統計的に推定・検定し、経済予測や政策の評価を目指す分野である。この講義では、計量経済学を学ぶために必要な統計学の知識習得を目的とする。				

授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	統計学の分析概念
第3回	分布の特性値
第4回	確率
第5回	二項分布・ポアソン分布
第6回	一様分布・正規分布
第7回	標準正規分布
第8回	統計的有意性
第9回	標本平均の分布と母平均の推定
第10回	t分布
第11回	t分布と母平均の推定
第12回	カイ二乗分布
第13回	母標準偏差の推定
第14回	仮説検定
第15回	まとめ

事前学修	2時間	教科書の該当箇所に目を通しておくこと。
事後学修	2時間	教科書の講義内容に該当する部分を復習し、練習問題を解くこと。
フィードバックの方法	レポート課題について、講義内やオフィスアワーの時間等に質問を受け付けることでフィードバックする予定である。	

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『はじめての統計学』	鳥居泰彦	日本経済新聞出版社	4532130743	なし
参考資料				

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	100%	数回ごとに講義内容を理解しているかどうかの確認レポート課題を課す。その点数によって成績評価をする。
定期試験	0%	実施しない

科目名	計量経済学Ⅱ			担当教員	稲垣 雅一
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	EI3ECA302
期待される学修成果	情報の分析に関する力、基礎力、				
アクティブ・ラーニングの要素	該当なし				
実務経験	(空白)				
実務経験を生かした授業内容	(空白)				
到達目標及びテーマ	本講義では、計量経済学の基礎を学び、また、課題を通して統計ソフトRの使い方を学ぶことを目標とする。				
授業の概要	この講義では計量経済学の基礎を身につけるために、様々なデータについてRを利用して処理してもらうことを予定している。				

授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	計量経済学の必要性
第3回	Rのチュートリアル
第4回	データの扱い方
第5回	確率論① 確率と確率分布
第6回	確率論② 条件付き期待値
第7回	統計学的推論
第8回	仮説検定
第9回	単回帰モデル
第10回	最小2乗法
第11回	傾きパラメーターの解釈
第12回	最小2乗法におけるいくつかの仮定
第13回	重回帰モデル
第14回	回帰分析後の検定
第15回	まとめ

事前学修	2時間	教科書の該当箇所に目を通しておくこと。
事後学修	2時間	教科書の講義内容に該当する部分を復習し、練習問題を解くこと。
フィードバックの方法	講義内でプログラムを組み、分析を実演してもらったアウトプットに対して、それぞれ個別に評価・アドバイスする予定である。	

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『データ分析をマスターする12のレッスン』	畑農鋭矢・水落正明	有斐閣アルマ	978-4-641-22103-1	なし
『計量経済学の第一歩』	田中隆一	有斐閣	978-4-641-15028-7	なし
参考資料				

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	70%	数回のレポート課題を課す予定。
上記以外の試験・平常点評価	30%	教科書の例を使いRで統計分析を再現してもらうなどの参加度によって評価する。
定期試験	0%	実施しない

科目名	ファイナンス論Ⅰ			担当教員	浅野 礼美子
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	EI2ECA307
期待される学修成果	社会事情に対応する応用力、情報の分析に関する力、				
アクティブ・ラーニングの要素	該当なし				
実務経験	(空白)				
実務経験を生かした授業内容	(空白)				
到達目標及びテーマ	<到達目標> ①ファイナンスの基礎用語を使い、証券の評価について説明できる。 ②金融経済と証券投資に関する情報を収集・分析することができる。 ③学習したことをもとに、資産運用や証券投資について自ら学び理解を深めることができる。 <テーマ> ファイナンス論の基礎を学び、資産運用と証券投資、証券の評価、ポートフォリオの選択、及びリスク管理について考える。				
授業の概要	本講義では、ファイナンス理論に加えて、実践的な資産運用と証券投資の基礎を学びます。その中で、資産形成のあり方について考えるとともに、証券（債券や株式）の評価、ポートフォリオ選択とリスクの分散化といった現代ファイナンス論の基礎を取り上げる予定です。 中学・高校程度の数学知識をもっていることを前提に講義を進めます。数学を苦手とする受講生は、中学・高校程度の数学を復習しておくことが望ましい。 日本経済新聞や金融経済に関するニュースを積極的にみて、金融経済への関心を高めておくこと。				

授業計画	
第1回	ガイダンス
第2回	企業の目標とガバナンス（１）：株式会社の目標
第3回	企業の目標とガバナンス（２）：エージェンシー問題とコーポレート・ガバナンス
第4回	現在価値と将来価値の計算方法
第5回	債券の評価
第6回	普通株式の価値
第7回	純現在価値とその他の投資基準（１）：純現在価値（NPV）ルールと内部収益率（IRR）ルール
第8回	純現在価値とその他の投資基準（２）：純現在価値に基づく投資判断
第9回	リスクとリターン入門（１）：リスクとリターンとは、リスク・プレミアムを測る
第10回	リスクとリターン入門（２）：ポートフォリオのリスクを測る
第11回	リスクとリターン入門（３）：個別の株式がポートフォリオのリスクに与える影響
第12回	ポートフォリオ理論と資本資産価格モデル（１）：収益率のバラツキと分布、2つの株式からなるポートフォリオ
第13回	ポートフォリオ理論と資本資産価格モデル（２）：リスクとリターンの関係、資本資産価格モデル（CAPM）とポートフォリオの選択
第14回	ポートフォリオ理論と資本資産価格モデル（３）：資本資産価格モデル（CAPM）と代替的な理論
第15回	授業全体の総括

事前学修	2時間	教科書の該当箇所を読み、要点を説明できるようにしておくこと。
事後学修	2時間	教科書の講義内容に該当する部分と配布資料を解釈し、小テストを解くこと。
フィードバックの方法	習熟度試験（小テスト）について、採点結果を開示し、その時点までの理解度が確認できるようにフィードバックする。	

補足事項	対面授業を実施する場合、指定された座席に着席してもらう予定です。 各自の責任においてユニバの小テストを期限までに実施・提出してください。
------	---

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
コーポレート・ファイナンス 第10版（上）	リチャード・ブリーリー、スチュワート・マイヤーズ、フランクリン・アレン	日経BP社	978-4-8222-4860-4	なし
参考資料	日本経済新聞。その他、講義の中で適宜指示する。			

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0％	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	100％	習熟度試験（小テスト）80％と平常点（小テストへの取り組み、授業態度、貢献度など）20％の合計

科目名	ファイナンス論Ⅱ			担当教員	浅野 礼美子
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	EI2ECA308
期待される学修成果	社会事情に対応する応用力、情報の分析に関する力、				
アクティブ・ラーニングの要素	該当なし				
実務経験	(空白)				
実務経験を生かした授業内容	(空白)				
到達目標及びテーマ	<到達目標> コーポレート・ファイナンスに関する課題を、理論と実践の双方から考察して、意見を述べることができる。 <テーマ> 資金調達の決定と市場の効率性、及び利益還元政策と資本構成について理解することができる。				
授業の概要	リスクと資本コスト、効率的市場と行動ファイナンス、企業の資金調達の概要、利益還元政策、負債政策といった各トピックについて、事例の考察及び演習問題を解きながら理解を深めていく。 ファイナンス論Ⅰで取り上げた理論・考え方を十分に修得していることを前提に講義・習熟度試験（小テスト）を実施するため、ファイナンス論Ⅰの単位を既に修得済みである方のみ履修登録するようお願いします。 中学・高校程度の数学知識をもっていることを前提に講義を進めます。数学を苦手とする受講生は、中学・高校程度の数学を復習しておくことが望ましい。 日本経済新聞や金融経済に関するニュースを積極的にみて、金融経済への関心を高めておくこと。				

授業計画	
第1回	ガイダンス
第2回	リスクと資本コスト（１）：企業とプロジェクトの資本コスト
第3回	リスクと資本コスト（２）：資本コストの推計
第4回	リスクと資本コスト（３）：リスク分析、何が資産のベータを決定するのか
第5回	効率的市場と行動ファイナンス（１）：効率的市場とマーケットアノマリー
第6回	効率的市場と行動ファイナンス（２）：行動ファイナンスの基礎
第7回	企業の資金調達の概要（１）：資金調達の類型と株式
第8回	企業の資金調達の概要（２）：債券、金融システム
第9回	企業はどのように証券を発行するのか：新規公開株式（IPO）とベンチャーキャピタル
第10回	利益還元政策：利益還元の定義、利益還元政策に関する議論
第11回	負債政策：モジリアーニ＝ミラー入門、ベッキングオーダー理論
第12回	コーポレートファイナンスに関する話題
第13回	ESG投資
第14回	地球温暖化と株式市場
第15回	総括

事前学修	2時間	教科書の該当箇所を読み、要点を説明できるようにしておくこと。
事後学修	2時間	教科書の講義内容に該当する部分と配布資料を解釈し、小テストを解くこと。
フィードバックの方法	習熟度試験（小テスト）について、採点結果を開示し、その時点までの理解度が確認できるようにフィードバックする。	

補足事項	対面授業を実施する場合、指定された座席に着席してもらう予定です。 各自の責任においてユニバの小テストを期限までに実施・提出してください。
------	---

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
コーポレート・ファイナンス 第10版（上）	リチャード・ブリーリー、スチュワート・マイヤーズ、フランクリン・アレン	日経BP社	978-4-8222-4860-4	なし
参考資料	日本経済新聞。その他、講義の中で適宜指示する。			

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	100%	習熟度試験（小テスト）80％と平常点（小テストへの取り組み、授業態度、貢献度など）20％の合計

科目名	マーケティングリサーチ			担当教員	村松 潤一
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	EI3BUA320
期待される学修成果	社会事情に対応する応用力、情報の分析に関する力、				
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	マーケティングデータの分析手法について正しく理解した上で、実際の企業データを用いて基本的なデータ分析をし、他者が理解しやすいように説明できることを目標とする。				
授業の概要	本講義の前半は、マーケティングリサーチの位置づけ、定性調査と定量調査の違い、深層インタビューについて学び、後半では、まず、エスノグラフィーに対する理解を深めたあと、インターネット上の消費者行動の分析をネットノグラフィーという方法として学ぶ。さらに、それらの知見に対して学術的、実務的な視点からアプローチする。				

授業計画	
第1回	オリエンテーション（授業の狙いと受け方について説明する。マーケティング・リサーチとは何かを概説する。）
第2回	マーケティングとマネジメント
第3回	マーケティングにおけるリサーチの位置づけ
第4回	定性調査
第5回	深層インタビュー
第6回	事例研究
第7回	中間テスト及びフィードバック（発展問題を含む）の実施
第8回	エスノグラフィーと観察法
第9回	ネットノグラフィー
第10回	データ収集ツール
第11回	学術的アプローチ
第12回	実務的アプローチ
第13回	プレゼンテーション
第14回	事例研究
第15回	最終テスト及びフィードバック（発展問題を含む）の実施

事前学修	2時間	日頃から、様々なメディアが発する最新の企業関連情報をチェックし、企業経営を身近なものとして捉えること。
事後学修	2時間	PPT資料を整理するとともに、講義中に取り上げた設問について復習しておくこと。
フィードバックの方法	中間・最終テスト終了後は、内容について詳細に解説する。	

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』	松井 昶	碩学舎	978-4-502-17551-0	なし
参考資料	PPT資料を配付する。			

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	100%	講義中に取り上げた設問を中心に出题。それらに対する理解度をチェック。（中間・最終テスト各50％）

科目名	経営分析Ⅰ			担当教員	大成 利広
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	EI3BUA317
期待される学修成果	情報の分析に関する力、基礎力、				
アクティブ・ラーニングの要素	該当なし				
実務経験	(空白)				
実務経験を生かした授業内容	(空白)				
到達目標及びテーマ	貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書から企業の収益性、安全性、活動性といった財務諸表の分析を行い、財務面から見た企業の現状を読み取ることができるようになる。				
授業の概要	貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の構造を理解し、収益性の分析、安全性の分析、活動性の分析を行い、さらに３者間の関係性をみることにより企業の分析を行っていく。また、実際の企業の財務諸表を用いながら解説を行う。				

授業計画	
第1回	ガイダンス、経営分析の意義と方法
第2回	経営分析の手法 構成比率分析、趨勢分析
第3回	損益計算書の構造と貸借対照表の構造
第4回	収益性の分析(1) 資本利益率とその分解
第5回	収益性の分析(2) ROEによる分析と財務レバレッジ
第6回	収益性分析(3) 売上高利益率
第7回	活動性分析(1) 資本回転率
第8回	活動性分析(2) 資本回転期間
第9回	安全性分析(1) 短期流動性の分析
第10回	安全性分析(2) 長期流動性の分析
第11回	キャッシュ・フロー計算書の構造とキャッシュ・フロー計算書による分析
第12回	実際の企業の財務諸表により、収益性、安全性、活動性の分析を行う。
第13回	財務諸表の構造と財務分析指標(1)
第14回	財務諸表の構造と財務分析指標(2)
第15回	財務諸表の構造と財務分析指標(3)

事前学修	2時間	専門用語や分析に用いる比率の意味及び計算方法をあらかじめ調べておくこと。
事後学修	2時間	講義内で学習した分析手法を使って、企業の実際の公表財務諸表を分析し、企業の現状を評価してみること。
フィードバックの方法	単元ごとに理解度チェックテストを行い、授業時に返還し、解説する。	

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし	なし	なし	なし	なし
参考資料				

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	80%	財務諸表の構造と財務分析指標を用いた問題により評価する。
上記以外の試験・平常点評価	20%	対象企業の分析についての発表・発言等により評価する。

科目名	経営分析Ⅱ			担当教員	大成 利広
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	EI4BUA318
期待される学修成果	情報の分析に関する力、基礎力、				
アクティブ・ラーニングの要素	該当なし				
実務経験	(空白)				
実務経験を生かした授業内容	(空白)				
到達目標及びテーマ	貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書から企業の収益性、安全性、活動性、生産性といった財務諸表の分析を行い、財務面から見た企業の現状を読み取ることができるようになる。さらに、利益計画や企業の総合評価ができるようになる。				
授業の概要	財務諸表から付加価値を算出し、生産性分析を行う。また、損益分岐分析により短期利益計画を行う。最終的には収益性、安全性、活動性、生産性を用いて企業の総合的な分析を行なう。				

授業計画	
第1回	生産性分析(1) 付加価値の意義と算出
第2回	生産性分析(2) 生産性の比率による分析、生産性と収益性の関係
第3回	損益分岐分析(1) 損益分岐点の意義と計算方法
第4回	損益分岐分析(2) 損益分岐点と限界利益
第5回	損益分岐分析(3) 損益分岐図表
第6回	損益分岐分析(4) 損益分岐分析指標
第7回	損益分岐分析(5) CVP分析
第8回	損益分岐分析(6) 固定費と変動費の分解
第9回	企業の総合評価(1) 指数法(ウォール指数法)
第10回	企業の総合評価(2) レーダーチャートとフェース・メソッド
第11回	実際の企業分析(1) 自動車業界 時系列分析①
第12回	実際の企業分析(2) 自動車業界 時系列分析②
第13回	実際の企業分析(3) 自動車業界 クロスセクション分析
第14回	地元企業の分析(1) 岐阜県の企業の分析①
第15回	地元企業の分析(2) 岐阜県の企業の分析②

事前学修	2時間	専門用語や比率の意味及び計算方法をあらかじめ調べておくこと。使用する財務諸表を手に入れて読んでおくこと。
事後学修	2時間	講義内で学習した比率等を使って、就職を考えている企業やその業界の他企業の財務諸表を分析してみること。
フィードバックの方法	単元ごとに理解度チェックテストを行い、授業時に返還し、解説する。	

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし	なし	なし	なし	なし
参考資料				

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	80%	付加価値分析や損益分岐点を中心とした出題をし、点数により評価を行う。
上記以外の試験・平常点評価	20%	対象企業の分析についての発表や発言により評価する。

科目名	シミュレーション			担当教員	齊藤 善弘
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	EI3INA311
期待される学修成果	情報の分析に関する力、基礎力、				
アクティブ・ラーニングの要素	該当なし				
実務経験	(空白)				
実務経験を生かした授業内容	(空白)				
到達目標及びテーマ	シミュレーション技法を学び、シミュレーションで得られた数値結果をグラフ化できる。				
授業の概要	表計算ソフトExcelを利用して、決定論的および確率論的シミュレーションの技法とグラフ化を学ぶ。				

授業計画	
第1回	はじめに
第2回	Excelの基本操作とグラフ作成
第3回	複利計算
第4回	ローン計算
第5回	ゴールシーク
第6回	ソルバーと線形計画法
第7回	統計的基礎知識1：代表値、散布度、度数分布表
第8回	統計的基礎知識2：統計グラフ、相関係数、回帰直線
第9回	離散型確率変数（二項分布、ポアソン分布）
第10回	連続型確率変数（一様分布、正規分布）
第11回	離散型確率分布のグラフと確率の計算
第12回	連続型確率分布のグラフと確率の計算
第13回	分析ツールによる乱数発生
第14回	乱数によるシミュレーション
第15回	まとめ

事前学修	2時間	前回までの配付資料に目を通しておく。
事後学修	2時間	毎回の演習課題をプリントを見ながら繰り返し練習しておくこと。
フィードバックの方法	提出課題についてはつぎの授業時に解説するか、あるいはLMSに模範解答を載せフィードバックを行う。	

補足事項	ノートパソコン必携の授業になります。
------	--------------------

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし	なし	なし	なし	なし
参考資料	授業内で指示する			

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0％	実施しない
レポート	40％	中間：20％、期末：20％
上記以外の試験・平常点評価	60％	毎回提出する課題：60％

2024

履修要覧



岐阜聖徳学園大学
岐阜聖徳学園大学短期大学部

2024 年度 履修要覧

経済情報学部

四年制学部共通事項

— 羽島キャンパス
教育学部
外国語学部
看護学部
— 岐阜キャンパス
経済情報学部

教育学部

外国語学部

看護学部

経済情報学部

岐阜聖徳学園大学短期大学部

授業科目

授業科目の体系

卒業要件は、この分類によって指定されます。
具体的な科目名については、教育課程（P. 165）を参照してください。

- 建学の精神に関する科目
- 教 養 基 礎 科 目 (Yawaragi Basis)
- 専 門 科 目

履修上の分類

必修科目	必ず履修しなければならない科目
選択必修科目	指定された科目の中から選択し、所定の単位数を必ず履修しなければならない科目
選択科目	自由に選択履修できる科目
自由選択科目	単位認定はされるが、卒業要件に含まれない科目

履修上の注意点

- ・在学年次よりも上級年次の授業科目は、履修できません。
- ・既に単位修得した授業科目は、再履修することができません。

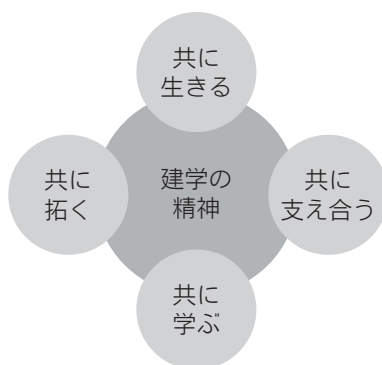
Yawaragi Basisとは

「Yawaragi Basis」とは、本学の建学の精神を根幹とした学部横断型の教養教育です。
本学の建学の精神である仏教精神を具体的にあらわす言葉として、聖徳太子の『十七条憲法』の第一条にある「以和為貴」（和をもって貴しとなす）や「平等」「寛容」「利他」を掲げています。

「以和為貴」の「和」は、「やわらかなところ」であることから、「Yawaragi Basis」と名づけています。

「Yawaragi Basis」では、「共に支えあい 創造し未来を切り拓く力」を身につけます。
異なる学部の学生が共に学び、交流し、幅広い知識を身に付けて、柔軟性のある思考力を涵養します。

「共に学ぶ」科目
基礎学力、知識、国語力、体力、精神力を身に付けます。 基礎セミナー／スポーツ／心理学／歴史学／日本国憲法
「共に拓く」科目
日本の伝統・文化・歴史、異なるものを理解する能力、情報リテラシー、語学力を身に付けます。 データサイエンス／外国語科目群／外国文化事情／英語実務
「共に生きる」科目
地球規模の視野、歴史的な視点、多角的な視点で物事を考える力を身に付けます。 文学／地理／数学／数学活用／統計入門
「共に支え合う」科目
社会との関わりの中で自己を位置づける力を身に付けます。 法学



Yawaragi Basis

単位制

算出方法

大学での教育課程は、単位制となっています。

開講授業科目にはそれぞれの単位数が定められており、その単位を修得するには、科目を履修し、所定の試験等に合格することが必要です。

単位は、授業科目の修得に必要な学修量を数字で表すものです。

本学では、各授業科目の毎週1回当たりの授業時間は90分ですが、これを制度上2時間として計算しています。

授業は前期15週、後期15週の30週が開講されることになっています。各授業科目の単位計算法は、科目の種類・性質によって異なり、本学部では次のように定めています。

①講義科目

15時間の授業で1単位となります。

これにより、本学部での毎週1回1セメスター（15週・半年間）の授業で2単位、2セメスター（30週・通年、週2回の場合は15週となり半年）の授業で4単位となります。

ただし、科目によっては、単位数の異なるものもあります。

②演習科目

- ・15時間の授業で1単位となります。

- ・毎週1回1セメスター（15週・半年間）の授業で2単位、1年間の授業で4単位となります。

③教養基礎科目の外国語科目および『基礎セミナーⅠ・Ⅱ』

- ・30時間の授業で1単位となります。

- ・毎週1回1セメスター（15週・半年間）の授業で1単位となります。

④実技・実習

- ・30時間の授業で1単位となります。

- ・毎週1回1セメスター（15週・半年間）の授業で1単位となります。

また、学修量は、上記の授業時間数だけで算定されるものではなく、教室外で自学自習する時間も含むことになっています。1単位の学修時間は、授業時間とその授業のための準備（予習・復習）をする教室外での自学自習時間を合わせた45時間となっています。例えば講義2単位（30時間）の場合、60時間の自学自習時間が必要となります。

なお、学外実習については、別に定めます。

C A P 制

C A P 制とは

半期に履修登録できる単位数に上限を定め、授業科目を適切に履修するための制度です。この上限を超える履修登録はできません。

1 単位の学修時間は、授業時間とその授業のための準備（予習・復習）をする教室外での自学自習時間を合わせて45時間となっています。履修した科目に比例して、それぞれに必要な学修時間も増えることとなるため、履修登録できる単位数を制限することで、履修科目について十分な学修時間を確保することができ、また学修した内容を真に身に付けることができます。

履修登録 上限単位数

前期 25単位

後期 24単位

ただし、当該学期の直前の学期のG P Aに基づき、次のとおり単位数の上限を変更して取り扱います。

直前の学期のG P Aが1.5未満の者 22単位

対象科目

C A P 制は卒業要件に算入できる科目を対象としていますので、教職科目はC A P 制の対象となりません。また『インターンシップ（講義）』『インターンシップ（実習）』も対象となりません。

卒業要件

卒業資格最低 単位数一覧

卒業するためには休学期間を除き 4 年以上在学し、次の表を充足する単位数の修得が必要です。

		経済情報学科			備考
		必修	選択		
建学の精神に関する科目		4			
教養基礎 科目 (Yawaragi Basis)	基礎力（基礎セミナー・スポーツ・データサイエンス科目）	6	8		(注) ₁ 英語Ⅰ・Ⅱの外に 同一言語のⅠ・Ⅱ または英語Ⅲ・Ⅳ かⅤ・Ⅵを履修
	言葉とコミュニケーション (英語Ⅰ・Ⅱ含む外国語科目)	4(注) ₁			
	人文科学				
	社会科学				
	自然科学				
	複合領域				
合計		22			
専門科目 (合計)		必修	選択必修	選択	(注) ₂ 選択必修は、経済 科目※ ₁ から6単位 と経営科目※ ₂ から6単位または、 情報科目※ ₃ から 6単位が必修
		20	12(注) ₂	74	
			86		
		106			
卒業資格最低単位数合計		128			自由選択科目は 含まない

「専門演習Ⅰ・Ⅱ」 履修要件

『専門演習Ⅰ』『専門演習Ⅱ』（必修科目）の履修要件は下記のとおりです。

『専門演習Ⅰ』（3年次開講）：2年終了時の総修得単位数が48単位以上

『専門演習Ⅱ』（4年次開講）：3年終了時の総修得単位数が92単位以上（『専門演習Ⅰ』含む）

教育課程

- (1) 開講年次欄 1・2・3・4 は学年を示し、●■☆○の位置が左寄り(前期)、右寄り(後期)、中央は通年の開講を表します。
 ●：週1回開講し、1セメスター(半年)で完結する科目。
 ■：週1回開講し、2セメスター(1年)で完結する科目
 ☆：不定期に開講し、2セメスター(1年)で完結する科目
 ○：再履修者を対象とした開講期を示す。
- (2) 講義区分欄の『講』は講義、『演』は演習、『実』は実技・実習科目を表します。
- (3) 各表の備考欄に留意してください。
- (4) やむを得ない事情により開講期を変更する場合や、非開講となる場合があります。
 必ずその年度の授業時間割表(履修の手引き)を確認してください。

建学の精神に関する科目

開講授業科目		講義 区分	単位数	履修単位 必修 選択		開講年次				備考
						1	2	3	4	
建学の精神に 関する科目	必修 宗教学Ⅰ	講	2	2		●				
	必修 宗教学Ⅱ	講	2	2		●				
最低修得単位				4	4単位					

教養基礎科目 (Yawaragi Basis)

YB 科目群	学則 区分	開講授業科目	講義 区分	単位数	履修単位		開講年次				備考	
					必修	選択	1	2	3	4		
共に学ぶ	基礎力	必修	基礎セミナーⅠ	演	1	1		●				外国語科目の選択必修2単位は、英語Ⅲ・Ⅳ、英語Ⅴ・Ⅵ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱから選択し履修すること。
			基礎セミナーⅡ	演	1	1			●			
			スポーツⅠ	実	1	1	●					
			スポーツⅡ	実	1	1		●				
	人文科学	選択必修	心理学Ⅰ	講	2		●					
心理学Ⅱ			講	2			●					
歴史学Ⅰ			講	2		●						
歴史学Ⅱ			講	2			●					
日本国憲法			講	2			●					
社会科学	基礎力	必修	データサイエンス入門	講	2	2		●				
	選択必修	データサイエンス基礎	演	1				●				
共に拓く	言葉とコミュニケーション	必修	英語Ⅰ	演	1	1	●					
			英語Ⅱ	演	1	1		●				
		選択必修	英語Ⅲ	演	1	2			●			
			英語Ⅳ	演	1				●			
			英語Ⅴ	演	1				●			
			英語Ⅵ	演	1				●			
			ドイツ語Ⅰ	演	1				●			
			ドイツ語Ⅱ	演	1				●			
			フランス語Ⅰ	演	1				●			
			フランス語Ⅱ	演	1				●			
			中国語Ⅰ	演	1				●			
			中国語Ⅱ	演	1				●			
	社会科学	英語コミュニケーションⅠ	演	1	8	●						
		英語コミュニケーションⅡ	演	1			●					
		英語実務	演	2		●						
		外国文化事情AⅠ	講	2		●						
		外国文化事情AⅡ	講	2		●						
		外国文化事情AⅢ	講	2		●						
		外国文化事情AⅣ	講	2		●						
		外国文化事情BⅠ	講	2		●						
		外国文化事情BⅡ	講	2		●						
		外国文化事情BⅢ	講	2		●						
		外国文化事情BⅣ	講	2		●						
共に生きる	人文科学	文学Ⅰ	講	2	●							
		文学Ⅱ	講	2		●						
	自然科学	地理Ⅰ	講	2	●							
		地理Ⅱ	講	2	●							
		数学	講	2	●							
		数学活用	講	2		●						
	複合領域	統計入門	講	2		●						
共に支えあう	社会科学	法学	講	2	●							
最低修得単位					10	8						
					18単位							

留学生・帰国生徒適用科目

開講授業科目				講義 区分	単位 数	履修単位		開講年次				備考
						必修	選択	1	2	3	4	
教養基礎科目	教養科目	選択	日本文化事情Ⅰ	講	2			●				合計4単位まで、 学則区分「人文 科学・社会科学・ 自然科学」科目 の代わりに履修 することができる。
			日本文化事情Ⅱ	講	2			●				
			日本社会事情Ⅰ	講	2			●				
			日本社会事情Ⅱ	講	2			●				
	外国語科目		日本語コミュニケーションⅠ	演	1			●				合計2単位まで、 学則区分「言葉 とコミュニケー ション」科目の 代わりに履修す ることができる。
			日本語コミュニケーションⅡ	演	1			●				
			日本語Ⅰ	演	1			●				
			日本語Ⅱ	演	1			●				

専門科目

開講授業科目				講義 区分	単位数	履修単位		開講年次				備考
						必修	選択	1	2	3	4	
専門科目	共通科目	必修	コンピュータ科学基礎	演	2	2		●				
			ミクロ経済学入門	講	2	2		●				
			マクロ経済学入門	講	2	2			●			
			総合基礎A	講	2	2		●				
			総合基礎B	講	2	2		●				
			キャリアデザイン I	講	2	2			●			
		選択	商法	講	2					●		
			会社法	講	2						●	
			民法 I	講	2				●			
			民法 II	講	2					●		
			数理 A	講	2			●				
			数理 B	講	2				●			
			数理 C	講	2					●		
	専門研究科目	必修	専門演習 I	演	4	4					■	
			専門演習 II	演	4	4					■	
		選択	卒業研究	演	4						■	
	学際領域科目	選択	スポーツ科学	講	2				●			
			実験経済学 I	講	2					●		
			実験経済学 II	講	2						●	
			Eコマース論 I	講	2				●			
			Eコマース論 II	講	2					●		
			行動ファイナンス	講	2					●		
			生活経済と情報	講	2				●			
			データ分析	演	2						●	
			地域産業	講	2					●		
			情報と社会	講	2				●			
			シミュレーション	演	2					●		
			情報管理	演	2					●		
			データサイエンス	演	2						●	
			行動科学	講	2			●				
	経済科目	経済の基礎 選択必修	経済統計	講	2	※1 6単位必修		●				
			経済財政事情	講	2				●			
			現代経済	講	2					●		
			経済の歴史 I	講	2			●				
			経済の歴史 II	講	2				●			
			ミクロ経済学 I	講	2				●			
			マクロ経済学 I	講	2					●		
			ミクロ経済学 II	講	2					●		
			マクロ経済学 II	講	2					●		
		経済の考え方 選択	ミクロ経済学 III	講	2						●	
			マクロ経済学 III	講	2						●	
			行動経済学 I	講	2				●			
			行動経済学 II	講	2					●		
			環境経済学 I	講	2					●		
			環境経済学 II	講	2						●	
			国際経済学 I	講	2					●		
			国際経済学 II	講	2						●	
			日本経済論 I	講	2				●			
			日本経済論 II	講	2					●		
			地球環境論 I	講	2			●				
			地球環境論 II	講	2				●			
			経済の現場から	講	2					●		
			グローバル経済論 I	講	2				●			
			グローバル経済論 II	講	2					●		

開講授業科目				講義 区分	単位数	履修単位		開講年次				備考		
						必修	選択	1	2	3	4			
専門科目	経済科目	経済の分析	選択	計量経済学Ⅰ	講	2					●			
				計量経済学Ⅱ	講	2						●		
				途上国開発論	講	2					●			
				国際金融論	講	2								●
				金融論Ⅰ	講	2					●			
				金融論Ⅱ	講	2						●		
				ファイナンス論Ⅰ	講	2					●			
				ファイナンス論Ⅱ	講	2						●		
				地域経済論Ⅰ	講	2					●			
				地域経済論Ⅱ	講	2						●		
				労働経済学Ⅰ	講	2						●		
				労働経済学Ⅱ	講	2								●
				交通論Ⅰ	講	2								●
				交通論Ⅱ	講	2								●
				社会科学特論Ⅰ	講	2								●
				社会科学特論Ⅱ	講	2								
	経営科目	選択必修	※ ² 6単位必修	ベンチャー企業論	講	2			●					
				経営学総論Ⅰ	講	2	●							
				経営学総論Ⅱ	講	2		●						
				経営管理論Ⅰ	講	2			●					
				経営管理論Ⅱ	講	2				●				
				経営戦略入門	講	2			●					
				簿記原理Ⅰ	講	2	●							
				簿記原理Ⅱ	講	2		●						
		選択	経営戦略論	講	2				●					
			事業経営入門	講	2					●				
			事業経営論	講	2						●			
			グローバルマネジメント	講	2				●					
			会計学Ⅰ	講	2			●						
			会計学Ⅱ	講	2				●					
			商学概論	講	2			●						
			流通論	講	2				●					
			経営分析Ⅰ	講	2					●				
			経営分析Ⅱ	講	2						●			
			マーケティング論	講	2					●				
			マーケティングリサーチ	講	2						●			
	情報科目	選択必修	※ ³ 6単位必修	情報処理Ⅰ	演	2			●					
				マルチメディアⅠ	演	2	●							
				マルチメディアⅡ	演	2			●					
				AⅠ基礎プログラミングⅠ	演	2		●						
				ウェブプログラミングⅠ	演	2	●							
				ウェブプログラミングⅡ	演	2			●					
				ウェブデザイン	演	2				●				
		選択	情報処理Ⅱ	演	2				●					
			情報処理論	講	2				●					
			AⅠ基礎プログラミングⅡ	演	2					●				
			AⅠ実践演習Ⅰ	演	2						●			
			AⅠ実践演習Ⅱ	演	2						●			
			ウェブアプリケーション	演	2					●				

開講授業科目				講義 区分	単位数	履修単位		開講年次				備考
						必修	選択	1	2	3	4	
専門科目	情報科目	選択	情報ネットワークⅠ	演	2				●			
			情報ネットワークⅡ	演	2						●	
			コンピュータシステム	演	2						●	
			データベース	演	2					●		
	キャリア教育科目	選択	社会人基礎力養成	講	2				●			
			キャリアデザインⅡ	講	2					●		
			キャリアデザインⅢ	講	2					●		
			キャリアデザインⅣ	講	2						●	
			インターンシップ（講義）	講	2					●		
			インターンシップ（実習）	実	1					☆		
			簿記実務	講	2			●				
			商業実務	講	2			●				
			情報実務	講	2			●				
			統計実務	講	2			●				
最低修得単位						32	74	※専門科目の必修32単位は、共通科目の必修20単位の外に、経済科目※1の科目から6単位と、経営科目※2の科目から6単位または、情報科目※3の科目から6単位を選択し履修すること。				
						106						

専門科目は、共通科目の必修20単位の外に、経済科目※₁から6単位と、経営科目※₂から6単位または情報科目※₃から6単位が必修。

※『インターンシップ（講義）』『インターンシップ（実習）』の成績評価は「合格」または「不合格」です。また、GPAに算入されません。

自由選択科目（卒業認定単位に算入されない）

（１）教育職員免許状を取得するための科目

本学開講授業科目			講義 区分	単位数	開講年次				備考
					1	2	3	4	
教科に関する 専門的事項	情報と職業 ※ 1	講	2			●		※ 1（情報）を取得する場合	
	職業指導 ※ 2	講	4			■		※ 2（商業）を取得する場合	
各教科の 指導法	中等教科教育法Ⅰ（情報）※ 1	講	2			●		【注意事項】 ・教職科目は、 卒業認定単位 に算入されない。 ・開講期は授業 時間割表（履 修の手引き） を参照するこ と。 ・教育職員免許 状に関するペー ジを参照する こと。	
	中等教科教育法Ⅱ（情報）※ 1	講	2			●			
	中等教科教育法Ⅰ（商業）※ 2	講	2			●			
	中等教科教育法Ⅱ（商業）※ 2	講	2			●			
教育の基礎 的理解に関 する科目	教育基礎論	講	2		●	●			
	教師論	講	2	●					
	教育の社会制度論	講	2		●	●			
	教育心理学	講	2		●	●			
	特別支援教育基礎	講	2			●	●		
道徳、総合的な 学習の時間等 の指導法及び生徒 指導、教育相談 等に関する科目	教育課程論	講	2			●	●		
	特別活動・総合的な学習の時間の 指導法	講	2		●	●			
	教育の方法と技術（情報通信技術 の活用含む）	講	2			●	●		
	生徒・進路指導論	講	2		●	●			
教育実践に 関する科目	教育相談	講	2			●	●		
	高等学校教育実習（事前事後）	講	1				☆		
	高等学校教育実習	実	2				☆		
	教職実践演習（幼・小・中・高）	講	2				●		

(2) その他資格科目

本学開講授業科目		講義 区分	単位数	開講年次				備考
				1	2	3	4	
図書館司書教諭資格 を得るための科目	学校経営と学校図書館	講	2			● ●		※履修希望者は教務課に申し出ること。 ※卒業認定単位に算入されない。
	学校図書館メディアの構成	講	2			● ●		
	学習指導と学校図書館	講	2			● ●		
	読書と豊かな人間性	講	2			● ●		
	情報メディアの活用	講	2			● ●		
浄土真宗本願寺派教師 資格を得るための科目	真宗概論	講	2	●				
	真宗史	講	2	●				
	仏教概論	講	2	●				
	宗門法規	講	2	●				
	勤式作法実演	実	1	●				
	法話実演	実	1	●				
	宗教概説・仏教史	講	1	●				

※自由選択科目はG P Aに算入されません。

教育職員免許状

教育職員免許状の取得

教育職員免許法および同施行規則に定める所定の授業科目の単位を修得したときは、次の表に掲げる免許状の種類および免許教科の種類に応じ、教育職員免許状の授与を受ける所要資格を得ることができます。

取得可能な免許状および資格

- ・高等学校教諭一種免許状（情報）
- ・高等学校教諭一種免許状（商業）

教育職員免許法別表第一（第五条、第五条の二関係）〔抜粋〕

第一欄		第二欄	第三欄	
免許状の種類	所要資格	基礎資格	大学において修得することを必要とする最低単位数	
			教科及び教職に関する科目	特別支援教育に関する科目
高等学校教諭	専修免許状	修士の学位を有すること。	83	
	一種免許状	学士の学位を有すること。	59	

取得条件

次の条件を満たすことにより、教育職員免許状の授与を受ける所要資格を得ることができます。

1. 学士の学位を有する（本学の卒業）
2. 次に掲げる科目の単位修得

施行規則に定める科目	単位数	本学開講授業科目	単位数
日本国憲法	2	日本国憲法	2
体育	2	スポーツⅠ	1
		スポーツⅡ	1
外国語コミュニケーション	2	英語コミュニケーションⅠ	1
		英語コミュニケーションⅡ	1
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	コンピュータ科学基礎	2

3. 取得する免許状の種類に応じた「教科及び教職に関する科目」の単位取得

「教科及び教職に関する科目」について、区分の内訳および教育職員免許法上の最低修得単位数は下表のとおりです。
詳細は P. 172～P. 175を参照してください。

教科及び教職に関する科目（内訳）	高等学校	
	専修	一種
A 教科及び教科の指導法に関する科目	24	24
B 教育の基礎的理解に関する科目	10	10
C 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	8	8
D 教育実践に関する科目	5	5
E 大学が独自に設定する科目	36	12
最低修得単位数	83	59

(1) 高等学校教諭一種免許状（情報）「教科及び教科の指導法に関する科目」（A）

免許法施行規則			本学開講授業科目		修得単位数		
科目区分		各科目に含めることが 必要な事項	開講授業科目／担当教員	単位数	必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理	情報と社会	2	2	8	
			情報管理	2			
			情報と職業	2	2		
		コンピュータ・情報処理	情報処理Ⅰ	2			
			情報処理Ⅱ	2			
			AIプログラミング基礎Ⅰ	2	2		
			AIプログラミング基礎Ⅱ	2			
			情報処理論	2			
			データ分析	2			
			情報システム	ウェブプログラミングⅡ	2		2
				データベース	2		
		ウェブアプリケーション		2			
		AI実践演習Ⅰ		2			
		AI実践演習Ⅱ		2			
		コンピュータシステム		2			
		情報通信ネットワーク	情報ネットワークⅠ	2	2		
			情報ネットワークⅡ	2			
			ウェブデザイン	2			
		マルチメディア表現・マルチメディア技術	マルチメディアⅠ	2	2		
			マルチメディアⅡ	2			
			ウェブプログラミングⅠ	2			
			シミュレーション	2			
	各教科の指導法 （情報通信技術の活用を含む。）		中等教科教育法Ⅰ（情報）	2	2		
			中等教科教育法Ⅱ（情報）	2	2		
最低修得 単位数	一種	教科：20単位 指導法：（高）4単位	教科に関する専門的事項合計単位数	48	16	8	
					24		

修得単位計算表

高等学校教諭一種免許状（情報） 「教科及び教科の指導法に関する科目」（A）	修得単位数
① 必修科目の修得単位数	16単位
② 選択科目の修得単位数	8単位以上
③ ①+②の合計から24を引いた数	I

↑ I の単位数を（4）高等学校教諭一種免許状（情報）「大学が独自に設定する科目」（P.175）にあてることができる。

(2) 高等学校教諭一種免許状（商業）「教科及び教科の指導法に関する科目」（A）

免許法施行規則			本学開講授業科目		修得単位	
科目区分		各科目に含めることが 必要な事項	開講授業科目	単位数	① 必修	② 選択
(A) 教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	商業の関係科目	マクロ経済学Ⅰ	2	2	必修以外から6単位以上※
			マクロ経済学Ⅱ	2		
			ミクロ経済学Ⅰ	2	2	
			ミクロ経済学Ⅱ	2		
			経営学総論Ⅰ	2	2	
			経営管理論Ⅰ	2		
			簿記原理Ⅰ	2	2	
			簿記原理Ⅱ	2		
			会計学Ⅰ	2		
			商学概論	2	2	
			マーケティング論	2		
			商法	2		
		Eコマース論Ⅰ	2			
	職業指導	職業指導	4	4		
各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)		中等教科教育法Ⅰ（商業）	2	2		
		中等教科教育法Ⅱ（商業）	2	2		
最低修得 単位数	一種	教科：24単位	計		18	6
					24	

修得単位計算表

高等学校教諭一種免許状（商業） 「教科及び教科の指導法に関する科目」（A）	修得単位数
① 必修科目の修得単位数	
② 選択科目の修得単位数	
③ ①＋②の合計から24を引いた数	Ⅱ

18単位
6単位以上選択

↑Ⅱの単位数を（5）高等学校教諭一種免許状（商業）「大学が独自に設定する科目」（P.175）にあてることができる。

(3) 高等学校教諭一種免許状「教育の基礎的理解に関する科目」等（B～D）

免許法施行規則			本学開講授業科目		修得単位	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	一種	開講授業科目	単位数	① 必修	選択
(B) 教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育基礎論	2	2	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む。）		教師論	2	2	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育の社会制度論	2	2	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	2	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育基礎	2	2	
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程論	2	2	
(C) 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な探究の時間の指導法	8	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2	2	
	特別活動の指導法					
	教育の方法及び技術		教育の方法と技術（情報通信技術の活用含む）	2	2	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法					
	生徒指導の理論及び方法					
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		生徒・進路指導論	2	2	
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2	2	
(D) 教育実践に関する科目	教育実習	3	高等学校教育実習（事前事後）	1	1	
			高等学校教育実習	2	2	
	教職実践演習	2	教職実践演習（幼・小・中・高）	2	2	
最低修得単位数		23	計		25	

修得単位計算表

高等学校教諭一種免許状（情報） 「教育の基礎的理解に関する科目」等（B～D）	修得単位数
① 必修科目の修得単位数	
② ①から23を引いた数	Ⅲ

↑Ⅲの単位数を（4）高等学校教諭一種免許状（情報）「大学が独自に設定する科目」（P. 175）にあてることができる。

高等学校教諭一種免許状（商業） 「教育の基礎的理解に関する科目」等（B～D）	修得単位数
① 必修科目の修得単位数	
② ①から23を引いた数	Ⅳ

↑Ⅳの単位数を（5）高等学校教諭一種免許状（商業）「大学が独自に設定する科目」（P. 175）にあてることができる。

(4) 高等学校教諭一種免許状（情報）「大学が独自に設定する科目」（E）

免許法施行規則		本学開講授業科目		修得単位	
科目区分	一種	開講授業科目	単位数	必修	選択
(E) 大学が独自に設定する科目	12				
最低修得単位数	12	計		12単位以上	

以下の方法により合計12単位を修得する必要がある。

- 1) 高等学校教諭一種免許状の「教科及び教科の指導法に関する科目」から修得したⅠの単位数をあてる
- 2) 高等学校教諭一種免許状の「教育の基礎的理解に関する科目」等から修得したⅢの単位数をあてる

修得単位計算表

高等学校教諭一種免許状（情報）「大学が独自に設定する科目」（E）	修得済単位数
「教科及び教科の指導法に関する科目」（P. 172）Ⅰの単位数	
「教育の基礎的理解に関する科目」等（P. 174）Ⅲの単位数	
合計単位数	

↑
12単位以上必要

(5) 高等学校教諭一種免許状（商業）「大学が独自に設定する科目」（E）

免許法施行規則		本学開講授業科目		修得単位数	
科目区分	一種	開講授業科目	単位数	必修	選択
(E) 大学が独自に設定する科目	12				
最低修得単位数	12	計		12単位以上	

以下の方法により合計12単位を修得する必要がある。

- 1) 高等学校教諭一種免許状の「教科及び教科の指導法に関する科目」から修得したⅡの単位数をあてる
- 2) 高等学校教諭一種免許状の「教育の基礎的理解に関する科目」等から修得したⅣの単位数をあてる

修得単位計算表

高等学校教諭一種免許状（商業）「大学が独自に設定する科目」（E）	修得単位数
「教科及び教科の指導法に関する科目」（P. 173）Ⅱの単位数	
「教育の基礎的理解に関する科目」等（P. 174）Ⅳの単位数	
合計単位数	

↑
12単位以上必要

教育実習

教育実習の実施学年・期間・実習校・履修要件は次のとおりです。

なお、教育実習履修要件は、「教育職員免許状」（P. 171～）に記載の「教科及び教職に関する科目」に基づき、確認を行ってください。

高等学校教育実習	実習学年	4 年次
	実習期間	2 週間（時期については実習校に従う）
	実習校	出身地域の高等学校を原則とする
	履修要件	「高等学校教育実習」履修前年度末までに①～④の条件を満たしていること ①（専門演習Ⅱを履修できる）92単位以上を取得 ②商業・情報両教科の免許取得を原則とし、両教科の「教科及び教科の指導法に関する科目」から必修の全科目を修得 ③「教育職員免許状を取得するための科目」のうち、4 年次開講の「教育実践に関する科目」以外の全科目を修得 ④教育実習の前年度までに実習校の受け入れ承諾を得ること 「高等学校教育実習」履修年次に⑤～⑥の手続きを行うこと ⑤教育実習該年度の「高等学校教育実習（事前事後）」を履修すること ⑥卒業予定年次において、教育職員の採用試験を受験すること

※上記履修要件を満たしている場合でも、教育職員としての適性や学力、参観実習（2 年生後期・3 年生前期実施）の態度等で、教育実習を制限する場合がある。

※3 年生前期終了時まで以下に資格を取得していることが望ましい。

○高等学校一種免許状（商業）：日本商工会議所簿記検定 3 級以上

○高等学校一種免許状（情報）：情報検定（J 検）、パソコン検定（P 検）3 級以上

本学以外での学修成果の評価

入学以前または在学中、他大学等の授業科目を履修し修得した単位、および資格検定試験を受験し、本学の定める基準に達した場合、教授会の議を経て、60単位を超えない範囲で本学において修得した単位として認定します。

単位認定される事項

- ①他大学等の授業科目を履修し、修得した単位
- ②本学が認めた留学により修得した単位
- ③ネットワーク大学コンソーシアム岐阜単位互換制度により修得した単位
- ④資格検定試験の合格により修得した単位

資格検定試験における単位認定

対象となる資格検定試験に合格した学生本人が以下の要領で申請を行った場合、該当する科目の単位を修得したものとし、単位認定します。

〈手続き等〉

1. 該当科目の履修登録（前期）を行ってください。なお、履修登録単位数の上限を越えないこと。
2. 申請書、検定試験等の合格証等を岐阜教務課に提出してください。

科目名			単位数	評価	検定試験の種類等
教養基礎科目	外国語科目	英語実務	2	認定	英語検定 2 級以上
					国連英検 B 級以上
					TOEFL (iBT) 60点以上
					IELTS 5 以上
					TOEIC® 550点以上
専門科目	キャリア教育科目	情報実務	2	認定	J 検定（情報検定）の情報活用試験 3 級以上
		簿記実務			P 検定（パソコン検定）の資格試験 3 級以上
					情報処理推進機構が実施する情報処理技術者試験（ITパスポート試験・基本情報技術者試験（FE）など）
		商業実務			日商簿記検定試験 3 級以上
					全商簿記検定試験 2 級以上
		統計実務			販売士資格検定試験 3 級以上
					FP（ファイナンシャルプランニング）技能検定 3 級以上
					統計検定試験 3 級以上 ビジネス統計スペシャリスト

留学における単位認定

本学が認めた留学により修得した単位を単位認定します。

科目名		単位数	評価	
教養科目	外国文化事情 A I	2	認定	留学先における単位修得
	外国文化事情 A II	2		
	外国文化事情 A III	2		
	外国文化事情 A IV	2		
	外国文化事情 B I	2		
	外国文化事情 B II	2		
	外国文化事情 B III	2		
	外国文化事情 B IV	2		

その他

指導教員

本学の専任教育職員が、学生の修学上の指導、進路及び学生の皆さんの個人的な悩みを含め、さまざまな問題へのアドバイスを行います。

【1年生】

『基礎セミナーⅠ』の担当教員

【2年生】

『基礎セミナーⅡ』の担当教員

【3年生】

『専門演習Ⅰ』担当教員

【4年生】

『専門演習Ⅱ』担当教員

※転籍による所属変更や、休学・卒業延期の場合は指導教員が変更になる場合があります。

オフィスアワー

各教員はオフィスアワーを設定し、教員の研究室へ学生が訪問できる時間帯を設けています。履修についての確認や相談、教員採用試験や就職試験の相談等に活用してください。
詳細は、「授業時間割表（履修の手引き）」を確認してください。

羽島キャンパス

教育学部 外国語学部 看護学部

〒501-6194 岐阜市柳津町高桑西一丁目1番地
TEL.058-279-0804(代) / FAX.058-279-4171

岐阜キャンパス

経済情報学部 短期大学部

〒500-8288 岐阜市中鶉一丁目38番地
TEL.058-278-0711(代) / FAX.058-278-0718

岐阜聖徳学園大学経済情報学部 データサイエンス教育プログラム

【数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(応用基礎レベル) 相当】

1. 目的とプログラムで育成する人材

数理・データサイエンス・AI の基本的な知識と技能を経済、経営、情報分野に応用し、自らの分野に課題解決するための実践的な能力を身につけた人材を育成することを目的としています。

- ・AI のモデルや AI の仕組みを理解している
- ・AI を利用して課題を解決する基礎的な能力を身につけることができる
- ・データ分析に必要なデータ処理を学び、様々な分析手法、可視化手法、データ収集法を組み合わせ、自らの専門領域に生かすことができる

2. 履修方法

表1または表2により、必修科目6科目12単位、選択科目2科目4単位を修得すること。

3. プログラムの修了

履修方法に基づき必要な単位を修得したものに對し、プログラムの修了証を交付します。

表1(2022年度入学生～2024年度入学生)

開講授業科目			講義 区分	単 位 数	修得単位		開講年次					
					必修	選択	1	2	3	4		
必修科目	域 科 目	学 際 領 域	データサイエンス	演	2	2				●		
		情報と社会	講	2				●				
	情 報 科 目	AI 基礎プログラミングⅠ	演	2	2			●				
		AI 基礎プログラミングⅡ	演	2	2					●		
		データ分析	演	2	2					●		
		AI 実践演習Ⅰ	演	2	2					●		
選択科目	科 目	共 通	数理 C	講	2	4			●			
	科 目	学 際 領 域	シミュレーション	演	2					●		
	経 済 科 目	経済統計	講	2	●							
		計量経済学Ⅰ	講	2						●		
		計量経済学Ⅱ	講	2							●	
		ファイナンス論Ⅰ	講	2				●				
		ファイナンス論Ⅱ	講	2					●			
	経 営 科 目	経営分析Ⅰ	講	2						●		
		経営分析Ⅱ	講	2							●	
		マーケティングリサーチ	講	2						●		
	目	情 報 科	情報処理論	講	2					●		
		AI 実践演習Ⅱ	演	2							●	
	修得単位数							12	4			
					16							

※プログラム修了のための必修科目と、卒業に必要な必修科目は異なりますので、注意してください。（この表はプログラム修了のための必修・選択を表示しています）

表2(2025年度入学生～)

開講授業科目			講義 区分	単 位 数	修得単位		開講年次				
					必修	選択	1	2	3	4	
必修科目	域 科 目	学 際 領 域	データサイエンス	演	2	2				●	
			情報と社会	講	2	2			●		
	情 報 科 目	AI 基礎プログラミングⅠ	演	2	2	●					
		AI 基礎プログラミングⅡ	演	2	2				●		
		データ分析	演	2	2				●		
		AI 実践演習Ⅰ	演	2	2				●		
選択科目	科 目	共 通	数理 C	講	2	4		●			
	科 目	学 際 領 域	シミュレーション	演	2				●		
	経 済 科 目	経済統計	講	2			●				
		計量経済学Ⅰ	講	2				●			
		計量経済学Ⅱ	講	2				●			
		ファイナンス論Ⅰ	講	2			●				
		ファイナンス論Ⅱ	講	2			●				
		経 営 科 目	経営分析Ⅰ	講	2				●		
	経営分析Ⅱ		講	2					●		
	マーケティングリサーチ		講	2				●			
	目	情 報 科	情報処理論	講	2			●			
			AI 実践演習Ⅱ	演	2					●	
修得単位数					12	4					
					16						

※プログラム修了のための必修科目と、卒業に必要な必修科目は異なりますので、注意してください。（この表はプログラム修了のための必修・選択を表示しています）

プログラムのカリキュラムマップ(2022年度入学生～2024年度入学生)

	1 年		2 年		3 年		4 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
共通・学際 領域科目			情報と社会	数理 C	シミュレーション	データサイエンス		
経済科目	経済統計		ファイナンス論Ⅰ	ファイナンス論Ⅱ	計量経済学Ⅰ	計量経済学Ⅱ		
経営科目					経営分析Ⅰ	マーケティングリサーチ	経営分析Ⅱ	
情報科目		AI 基礎プログラミングⅠ		情報処理論	AI 基礎プログラミングⅡ	データ分析 AI 実践演習Ⅰ	AI 実践演習Ⅱ	

プログラムのカリキュラムマップ(2025 年度入学生)

	1 年		2 年		3 年		4 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
共通・学際領域科目			情報と社会	数理 C	シミュレーション	データサイエンス		
経済科目			経済統計 ファイナンス論 I	ファイナンス論 II	計量経済学 I	計量経済学 II		
経営科目					経営分析 I	マーケティング リサーチ	経営分析 II	
情報科目		AI 基礎プログラミング I		情報処理論	AI 基礎プログラミング II	データ分析 AI 実践演習 I	AI 実践演習 II	

【参考】「数理・データサイエンス・AI 教育(リテラシーレベル)プログラム」(全学部で実施)

このプログラムの修得にあたって、「数理・データサイエンス・AI 教育(リテラシーレベル)プログラム」に該当する科目の履修を並行することで、より理解が深まります。

	数理・データサイエンス・AIを道具として活用し、社会に貢献できる人材			
4年次後期	各学部の専門教育(専門演習(ゼミ)・研究の基礎・卒業研究(卒業論文)等)			
4年次前期				
3年次後期	各学部において、「ICT基礎」又は「コンピュータ科学基礎」、「データサイエンス入門」、「データサイエンス基礎」、「(学部独自のDX関連科目)を修了する	 Gifu Shokoku Gakuin 数理・データサイエンス・AI教育プログラム DIPLOMA OF COMPLETION その履修証明として、【オープンバッジ】を授与	AI 実践演習 I ※文部科学省数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)申請予定	
3年次前期				
2年次後期	データサイエンス(教育活用論)	データサイエンス(ことば)		データサイエンス(DX看護)
2年次前期	データサイエンス基礎			
1年次後期	データサイエンス入門 ※文部科学省 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)認定 導入 基礎 心得			
1年次前期	ICT 基礎	ICT 基礎	コンピュータ科学基礎	ICT 基礎
	教育学部	外国語学部	経済情報学部	看護学部

※「コンピュータ科学基礎」「データサイエンス入門」は経済情報学部の卒業必修科目です。

※「外国語学部」は令和7年度から「人文学部」に改組を予定しています。

経済情報学部教務委員会規程

一部改正 令和2年4月1日

(設置)

第1条 経済情報学部教授会規程第4条に基づき、教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、教務に関する次の事項を審議する。

- (1) 教育課程の編成に関する事
- (2) 履修方法に関する事
- (3) 試験に関する事
- (4) 学業評価及び卒業に関する事
- (5) 学籍に関する事
- (6) 再入学、編入学、転学及び転籍に関する事
- (7) 研究生、科目等履修生、外国人特別留学生及び履修証明プログラムに関する事
- (8) シラバスの記載内容（カリキュラム・ポリシーとの整合性を含む）の改善に関する事
- (9) その他教務に関する事

(構成)

第3条 委員会は、教授会において選出された3名以上の教育職員をもって構成する。

(運営)

第4条 委員会は、委員の互選により委員長・副委員長を選出する。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。
- 4 委員会は必要に応じて委員以外の教育職員・事務職員の出席を求めることができる。
- 5 委員会は必要に応じて小委員会又は専門委員会を置くことができる。

(定足数)

第5条 委員会の定足数は、構成員の3分の2とする。

(議決)

第6条 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(任期)

第7条 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

(報告)

第8条 委員長は委員会の審議結果について、教授会に報告しなければならない。

- 2 委員長は、全学に関する審議事項については、全学教務委員会で調整し、教授会に審議結果を報告しなければならない。

(幹事)

第9条 委員会の記録その他の事務は、岐阜教務課が担当する。

附 則

- 1 この規程は、平成11年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行の日をもって、教務委員会規程（平成10年4月1日施行）は、廃止する。

附 則

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

経済情報学部教務委員会規程

一部改正 令和2年4月1日

(設置)

第1条 経済情報学部教授会規程第4条に基づき、教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、教務に関する次の事項を審議する。

- (1) 教育課程の編成に関すること
- (2) 履修方法に関すること
- (3) 試験に関すること
- (4) 学業評価及び卒業に関すること
- (5) 学籍に関すること
- (6) 再入学、編入学、転学及び転籍に関すること
- (7) 研究生、科目等履修生、外国人特別留学生及び履修証明プログラムに関すること
- (8) シラバスの記載内容（カリキュラム・ポリシーとの整合性を含む）の改善に関すること
- (9) その他教務に関すること

(構成)

第3条 委員会は、教授会において選出された3名以上の教育職員をもって構成する。

(運営)

第4条 委員会は、委員の互選により委員長・副委員長を選出する。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。
- 4 委員会は必要に応じて委員以外の教育職員・事務職員の出席を求めることができる。
- 5 委員会は必要に応じて小委員会又は専門委員会を置くことができる。

(定足数)

第5条 委員会の定足数は、構成員の3分の2とする。

(議決)

第6条 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(任期)

第7条 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

(報告)

第8条 委員長は委員会の審議結果について、教授会に報告しなければならない。

- 2 委員長は、全学に関する審議事項については、全学教務委員会で調整し、教授会に審議結果を報告しなければならない。

(幹事)

第9条 委員会の記録その他の事務は、岐阜教務課が担当する。

附 則

- 1 この規程は、平成11年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行の日をもって、教務委員会規程（平成10年4月1日施行）は、廃止する。

附 則

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

大学等名	岐阜聖徳学園大学経済情報学部	申請レベル	応用基礎レベル（学部・学科等単位）
教育プログラム名	岐阜聖徳学園大学経済情報学部 数理・データサイエンス・AI教育（応用基礎レベル）プログラム	申請年度	令和 7 年度



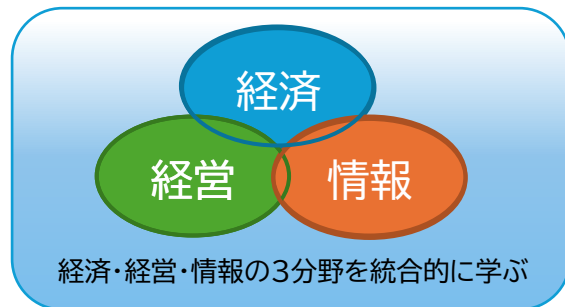
岐阜聖徳学園大学経済情報学部 数理・データサイエンス・AI教育(応用基礎レベル)プログラム

プログラムの目的と身につけられる能力

応用基礎レベル

【目的】数理・データサイエンス・AIの基本的な知識と技能を経済、経営、情報分野に応用し、自らの分野に課題解決するための実践的な能力を身につけた人材を育成する。

【身につけられる能力】AIのモデルやしきみ、またデータ収集・可視化・分析の基礎的な能力を身に付ける。そして、それらを専門領域に活かすことができる。



プログラムを構成する科目

修了要件

必須科目 6 科目・選択科目 2 科目の合計 8 科目 16 単位以上を修得すること

必須科目	選択科目(2 科目)
データサイエンス	共通科目 数理C
AI基礎プログラミングⅠ	学際領域科目 シミュレーション
AI基礎プログラミングⅡ	経済科目 経済統計
データ分析	計量経済学Ⅰ・Ⅱ
AI実践演習Ⅰ	ファイナンス論Ⅰ・Ⅱ
情報と社会	経営科目 マーケティングリサーチ
	経営分析Ⅰ・Ⅱ
	情報科目 情報処理論
	AI実践演習Ⅱ

プログラムの実施体制

改善・進化させるための体制

「経済情報学部教務委員会」にて、カリキュラムの見直しなどの改善を図り、体系的な知識と技能の習得ができるよう検討する。

自己点検・評価を行う体制

「経済情報学部教務委員会」にてシラバスチェックや、プログラムの履修状況・学習成果などを把握する。

プログラムのカリキュラムマップ(赤字は必須科目)								
	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
共通・学際領域科目			情報と社会	数理C	シミュレーション	データサイエンス データ分析		
経済科目	経済統計		ファイナンス論Ⅰ	ファイナンス論Ⅱ	計量経済学Ⅰ	計量経済学Ⅱ		
経営科目					経営分析Ⅰ	マーケティングリサーチ	経営分析Ⅱ	
情報科目		AI基礎プログラミングⅠ		情報処理論	AI基礎プログラミングⅡ	AI実践演習Ⅰ	AI実践演習Ⅱ	

参考 リテラシーレベルプログラム(全学で実施)

学年	教育学部	経済情報学部	看護学部	人文学部
3		AI実践演習Ⅰ		
2	データサイエンス (教育活用論)		データサイエンス (DX看護)	データサイエンス (ことば)
データサイエンス基礎				
データサイエンス入門(MDASHリテラシーレベル認定)				
1	ICT基礎	コンピュータ科学基礎	ICT基礎	ICT基礎